



はなみずき

小林市にあふれる「花・水・木」、花言葉などいろいろな思いが込められています

東方小校区



須木小校区



野尻小校区



細野小校区



小林小校区



幸ヶ丘小校区



南小校区



平成29年度

栗須小校区

市民との意見交換会



永久津小校区

内山地区



西小林小校区



紙屋小校区



三松小校区



鳥田町地区



意見交換会会場

臨時号では「市民意見」をピックアップして掲載しています。詳細については小林市ホームページをご覧ください。

朝晩めっきり冷たさを感じる季節となりました。どこからか聞こえる花火の音、軽快な音楽、時折聞こえる歓声。運動会！秋本番ですね。秋といえば食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、といういろいろと楽しみがあります。皆さんはどんな秋を満喫していますか？私はもちろん食欲の秋です。体重が気になります。が・・・

さて、議会改革の必要性を感じ約7年前から協議を進め、その一歩目として取り組んだのが議会基本条例制定。その中でまず行ったのが、市民との意見交換会です。今回で4回目の開催。常任委員会、会派及び出身校区を考慮し4班に分け市内14会場で行いました。市民の皆さんに議会は何をやっているのかを知ってもらい、また各地域で抱えている課題を直接聞くことが大きな目的です。

第2回の意見交換会で聴取し

■ 同様の意見を多く聞く。議会全体で議論を深めていきたい。

■ デマンドがいかと考えている。年々運転免許返納者が増えることを考えて計画してほしい。乗り合いタクシー・デマンドなど早急に実現させてほしい。

■ 安心して運転免許返納できる体制をできるだけ早く構築するよう行政と議会全体で議論を深めていきたい。

野尻小校区



■ 日中、若い人たちは仕事に行っており、高齢者だけの状態になる。移動手段として何か手立てがないのか、という意見も聞くが、タクシー券の条件緩和など検討できないか。

■ タクシー券の助成は、年間900万円助成しており財政負担も大きくなるが予想される。議会全体で議論を深めていきたい。

永久津小校区



■ コミュニティバスをスクールバスとして活用し、子供達が通学する時間帯に1便運行できるように検討できないか。

■ スクールバスを活用して児童・生徒と高齢者が同乗できる時間帯の検討が必要と思われる。議会全体で議論を深めていきたい。

三松小校区



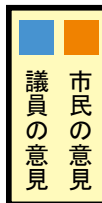
■ 乗り換えたらまた100円要る。100円だけで済むようにならないか。

■ 議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

■ 地域公共交通は地域住民の利便性と行政のまちづくりに寄与しているが、市外から小林市へ観光に来る人にも案内や表示をして利用を呼びかけたらどうか。

■ 大変良い提案であり、議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

テーマ① 地域交通 について



須木小校区

■ コミュニティバスが上九瀬から小林まで国道を走っているが、奈佐木地区の一部は国道まで2キロあり、そこまでの交通手段がない。議会としてはどう考えているのか。

■ 各地区に合う交通手段について議会でも議論を深めたい。

■ 病院が終わった時、帰りの便がなく、3時間待たなければならぬ。時間帯が合い、接続が可能であれば利用できる。

■ 議会全体で議論を深めていき

東方小校区

■ コミュニティバスで朝来ても帰りのバスに乗れない。2、3時間では用事を済ませられない。考えてほしい。

■ コミュニティバスの充実、デマンドバス、乗り合いタクシーなど、どの方法が地域に合うのか、議会全体で議論を深めていきたい。



西小林小校区

■ コミュニティバスを利用して、帰りのバスの時間に間に合わない。

■ 運転免許を返納すれば明日から病院に行けなくなり生活に困る。タクシー料金がもう少し安ければ運転免許自主返納者も増えるのではないか。自主返納したら市内全線のコミュニティバス料金を無料にしたらどうか。

■ 議会全体で議論を深めていきたい。

小林小校区



■ 三松方面は交通量が多い。大型店舗の進出もあり、さらに渋滞が予想されるが打開策はないか。

■ 国道都城線・宮崎線、上町交差点などは朝夕の交通量が多く、

心配しているところである。

※亀尾原交差点の工事完了により渋滞が緩和された箇所もある。

■ コミュニティバスの運行が月・水・金だが、高齢者の通院もあるため回数を増やせないか。

■ 市民へのアンケート調査を基にした運用・計画としており、市民が利用しやすい運行を検討することである。意見が反映されるよう議会全体で議論を深めていきたい。

南小校区

■ 何の事前相談もなく、こんな難しいテーマをもってくるのはおかしい。まず地域交通の取り組み現状を説明し、それから参加者に投げかけるべきではないか。

■ 高齢化率が上がり、移動手段を持たない高齢者は市内全域で増えてきている。今後、共通する重要課題と捉えテーマとして取り上げた。議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

栗須小校区

■ 病院に行くのに野尻地区内だけでなく小林地区方面にも福祉バスを運行してほしい。

■ 福祉バスとコミュニティバスの接続の悪さなど同様の要望は聞いている。議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

■ 運転免許返納者に対する特典はないのか。もっと運転免許を返納しやすい体制を作してほしい。

■ 返納証を提示すれば年間コミュニティバスの料金が半額になる。状況を把握し、地域の意見を伝えていく。

■ 交通弱者の視点に立つて財政負担も考慮しながら必要な公共交通網を整備することが重要である。そうすることでまちの活性化や魅力づくりにつながるようしてもらいたい。また、ふるさと納税を地域公共交通維持の原資にできないか。

■ 議会全体で議論を深めていき

区だけを回るバスを運行してほしい。

■ 総合的な見直しを行っており、議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

■ 今後、運転免許返納者は増加する。福祉バスの需給を行政が制御し、最適な運行に努めてほしい。

■ 福祉タクシーは基本料金が助成対象になっている。野尻から小林方面まで乗車すると基本料金をオーバーするのでタクシー利用券が2枚必要になる。野尻地区に対する福祉タクシー助成を考えてもらえないか。

■ 議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

内山地区

■ 福祉バス内山線（須志原―ゆばるのじり）は毎週1回、1日1回の運行である。これを1日2回にするか週2回にしてほしい。

■ 総合的な見直しを行っており、議会でも議論を深め、地域の意見を

たい。

幸ヶ丘小校区



■ 都市市庄内地区の乗り合いバスの取り組みを参考に、「にっこばまちづくり協議会」が地域内コミュニティバスの運行について市に提案した。他のきずな協働体からは出ていないのか。

■ 今のところ「にっこばまちづくり協議会」だけである。

■ 停留所から病院までが遠かったが、議員に伝えたところすぐに対応してもらい病院前に停留所ができ喜んでいる。

■ 他の地区でも停留所や路線についての要望が出ている。総合的な見直しを行っており、議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

細野小校区

■ 270世帯が居住し、65歳以上の高齢者が90人いる細野団地では、多くの人が交通の不便を感じている。堤地区に比べると便数も

少なく不公平感を感じている。コミュニティバスは団地を経由することはできないのか。

■ 議会全体で議論を深め、提言につなげていく。

■ アンケートを「のじりこぴあ」や「八幡原」で実施したとのことであったが、市民の希望が的確に反映されているとは思えない。

■ 調査方法については交通弱者の生の声を拾い上げることが必要である。また、利用者や地域の希望を把握することも重要と考える。

■ 都市市庄内地区で地域協議会が乗り合いバスを運行しており視察した。西小林ではそういうことをやろうとされているようだが、細野でもやれということなのか。

■ まちづくり協議会でコミュニティバスの運営をしたいとの要望が出ているが、法的、技術的な問題、安全面の問題など課題が多い。今、行政でも検討中であるが全域で実施するということではない。

伝えていく。



■ 高齢者等外出支援サービス（須木地区のみ）を内山地区まで広げてほしい。

■ 議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。



詳しくは、上記のQRコードを読み取ることで、小林市ホームページ「小林市地域公共交通網形成計画」のページでご覧いただくことができます。

テーマ②

空き家活用について



須木小校区

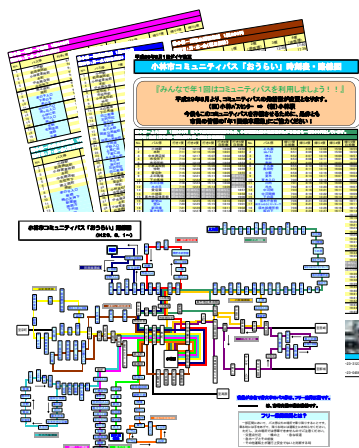
■ 須木に住みたい人は多い。空き家の家具の片付けなど進まない。処分するにもお金がかかる。何とかならないか。

■ 一般質問や委員会審査を通して伝えている。議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

東方小校区

■ 小林に空き家はどのくらいあるのか。

■ 小林に1,084軒、須木に99軒、野尻に284軒、全体で1,



鳥田町校区

■ コミュニティバスは、堂屋敷方面へ運行されていない。送迎に支障も出ている。早急に考えてほしい。

■ 小林市内には、コミュニティバスが運行されていない地域もある。総合的な見直しを行っており、議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。

紙屋小校区

■ 福祉バス野尻線を使って通院している。バスは野尻1区から4区まで回っているため時間がかかり、小林着が10時ごろになり病院の受付が遅れてしまう。野尻1

467軒あるが、空き家バンク登録には至らないのが現状。

■ 今後の対策はどうなるのか。

■ 空き家バンクに登録している賃貸物件のリフォームには市から50万円の補助がある。空き家として貸していたためには、どのようなことが必要か地域の意見を聴取し、議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

永久津小校区

■ 空き家対策について何か調査をしているのか。この地域にも45力所あるが、空き家バンク登録されているか分からない。

■ 約20軒の空き家バンク登録があり、約10軒を活用できている。空き家の改修事業は50万円の予算があり、所有者が市に申請し改修している。（軒数は平成29年8月現在）



西小林小校区

- 空き家にごみがある場合、撤去費用を市が出すなど具体的な対応をしなければ進まない。
- 有効活用や支援を考えていきたい。地域の意見を聴取し、議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

- リフォーム補助金が50万円まで出るといだが、どの位までできるのか。空き家を活用し定住促進しようとするなら、市は本気になるべき。50万円では人が住める家にはできない。
- 議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

小林小校区

- 都会よりお試し滞在で来た方が古い市営住宅を使用した、使い勝手が悪いと不満をもっていた。利用方法を考えてほしいが。
- 地域によっては認知症予防の一環で茶のん場としての活用や農家民泊など、正式な登録により幅

広い活用や体験事業が行える。



鳥田町地区

- 空き家バンク登録は個人でもできるのか。情報が不十分な面もあり分らないことも多いが。
- 窓口である地方創生課に所有者が申し込むようになっていく。市報や回覧板でも何度も空き家の情報は提供され、改修事業を含めPRされている。

野尻小校区

- 金銭的な問題もあるが、若者は「きれいになるならリフォームでもいい」という意見も聞くが。
- 若い人達で経費の掛からな

い、また所得の面でも「きれいになるなら空き家でもいい」という意見も聞いている。議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

栗須小校区

- なぜ空き家が増えているのか。働く場所がないことが原因ではないのか。
- 現在、若者が地元に残れるような様々な取り組みを県・市は行っている。地元企業も雇用の拡大に努力している。議会としてもこのような取り組みを支援していきたい。

幸ヶ丘小校区

- 南ヶ丘地区には「茶のん場」がない。空き家を利用できないか。
- 野尻地区では、市の予算で商工会青年部が主体となり、空き家を改装をし活用しようとしている。このような例もあるのでこれを先例として、今後、空き家活用が進むことを期待している。

■ 空き家を利用するにあたっての補助制度があるのか。

■ 空き家バンクに登録している賃貸物件で移住者と契約が成立した場合、空き家の所有者に対し最大50万円の空き家改修補助がある。この補助金は、家財道具等の運搬及び廃棄にも使える。

■ 空き地も草が生い茂っている。早めに対策をとらないと所有者に連絡が取れなくなるのではないか。

■ 空き家、空き地の所有者の把握は課題になっている。各課横断的な取り組みが必要になっていると考える。今後も、議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

■ 産業に結び付く空き家の利活用が必要ではないか。

■ 日南市では、古い民家を活用し観光につなげ、外国人が多く利用している。空き家の所有者が利活用しやすくなるよう、今後さらに議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

細野小校区

- 平成27年に空き家調査をしたが所有者の把握が難しく、また、荷物が置いたままになっており、空き家の活用は難しいのではないかと感じている。移住定住の促進として歴史ある建物を利用するということであれば可能であると思う。

■ 関係各課で横断的な取り組みが必要ではないかと考える。

■ 空き家の固定資産税はどうなっているか。

■ 法改正によって特定空家に指定されると固定資産税が高くなるが、本市では今のところそういう事例はない。

■ 空き家が多くなっている原因は、経済格差によって人が都会に集中することにあると思う。市の仕事は地元業者に発注したり市職員も正規職員を増やすなどとして、小林市と大都市との所得格差を質すことが必要ではないか。

■ 所得の格差問題も確かにある。雇用、住宅、医療などの整備も必要と考えている。今後、議会全体で議論を深めていきたい。

内山地区

- 教職員住宅が空き家になっている。家賃を安くして一般に貸し出して地域を活性化できないか。
- 昨年も同様の意見があり、担当課に伝えている。



紙屋小校区

- 今後の空き家対策をどうするか。
- 現在、空き家情報をデータベースに入力中である。平成29年

南小校区

9月から空き家等の管理状況、防災・衛生・景観など、地域住民への影響度合いなど現地調査し、詳細データを入力する。その後、平成30年度までに現地調査結果を基に、空き家等対策を効果的かつ効率的に推進するための「空き家等対策計画」を策定する予定である。

■ 廃屋状態の空き家は、防犯上の問題があり、地域にとって景観も悪く、地域の人は早急な対策を望んでいるが。

■ 空き家対策特別措置法が施行された。著しく危険で周辺への影響が大きい空き家を市町村が強制的に対処できる。空き家は所有者の財産でもあり、慎重な対応が求められる。

■ 登記されていない空き家が一番問題になってくるのでは。

■ 行政は空き家対策を効果的かつ効率的に推進するための「空き家等対策計画」の策定を平成30年度までに行う方針である。

三松小校区

■ 空き家はただ住むだけの利用ではなく、公民館的な活用はできないのか。

■ 野尻地区内の空き家から選定した住宅1軒を借り上げ、リフォームし、移住希望者のお試し宿泊施設として貸し出したり、きずな協働体の拠点や交流にも使っていく計画がある。

■ 小林市には若者の働く場がないため若者離れしていく。空き家を料理店にするなどして若者の働く場に、将来の展望が持てるようにしたら良いのではないかと。

■ 議員間で議論していきたい。



詳しくは、上記のQRコードを読み取ることで、小林市ホームページ「空き家バンク制度とは」のページでご覧いただくことができます。

自由意見

須木小校区

参加者
12人

■ 消防訓練広場のトイレが汚い。

■ 現地を確認し、写真とともに担当課へ伝えた。



■ 意見交換会で出た意見の回答はどうなるのか。

■ 全校区の報告書はホームページで見ることができる。

永久津小校区

参加者
6人

■ 協働のまちづくりの話はどうなっているか。

■ 市内でも4カ所が立ち上がり、3カ所で設立に向け準備中である。あとは永久津地区と小林地区だけである。積極的に取り組み活性化してほしい。



小林小校区

参加者
23人

■ 教育格差について、子育てには昔と比べてお金がかかり、家庭的に余裕がないと進学もできず就職する。子供の可能性の芽をつぶしてしまっているのではないかと

鳥田町地区

参加者
15人

■ 「地域医療を考える会」があるが、議員をなかなか見かけない。市立病院事業管理者も現況を分かりやすく取り上げて説明されている。一番身近な意見の言える議員にも参加してほしいが。

■ 会員の議員もおり色々と案内や資料はいただいている。参加できるよう、他の議員にも積極的に呼びかけたい。

野尻小校区

参加者
21人

■ 児童クラブは今年20人の定数で27人の申込みがあったが、来年も定数を超すと大変である。もし幼稚園と保育園が一緒になれば幼稚園の場所が空くのでクラブにそこを貸していただければ、待機児童はいなくなるが。

■ 年によって希望者の増減がある。予測は難しいが、定員を超えることが続けば、当然予算措置も必要である。委員会審査を通して十分議論し、予算を含め改善点を提案していく。



栗須小校区

参加者
33人

■ 三ヶ野山グラウンドに行く道路と国道との交差点付近が坂になっていること、幅員が狭いということもあり危険である。利用者は多いため早く対策を考えてほしい。

■ 委員会審査を通して十分議論し、地域の意見を伝えていく。



紙屋小校区

参加者
16人

■ 高岡に工場立地する会社の社員用住宅を期待して、市が漆野原^{うるしのぼろ}に住宅を造成する話を聞いた。紙屋地区活性化のために推進してほしい。

■ 議会全体で議論し、地域の意見を伝える。

■ 集団健康診査が今年から紙屋で日曜日にできるようになった。これを地区（字）単位にやってほしい。

■ 議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

三松小校区

参加者
11人

■ 高校卒業後、大半が市外に出ている。やる気ある若者を育てるべきでは。

■ 平成29年度からキャリア教育制度を立ち上げ、地元産業の魅力を伝え、地元に着する若者を育てる教育を始めた。

内山地区

参加者
16人

■ 内山地区に老人クラブを立ち上げたい。どのような助成金があるのか。

■ 担当課に確認したところ、小林市老人クラブ連合会（百歳会館内）が窓口となっている。地域から直接、相談ください。



■ 紙おむつは週1回（月）燃やすごみで出している。これを夏場だけでいいから週2回（月・木）出せるようにしてほしい。夏場の異臭は強烈で近寄れない。

■ 議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

幸ヶ丘小校区

参加者
7人

■ 小林地区ではテレビの局数が少ない。若者定住のためにもケーブルテレビの導入はできないのか。

■ 野尻地区の導入の際は国の補助が9割あった。多額の経費が必要となるためこのような補助がなければ単独で導入するのは難しいと思われる。

■ 小林市には子供が入院できる病院がない。都城市や宮崎市に行くのは大変。安心して出産し、子育てができる体制を作ってほしい。

■ 2市1町で市立病院を西諸の中核病院として産婦人科、小児科の設置に取り組むという合意ができた。また、医師の待遇改善等にかかる予算を県に要請して確保を求めている。

■ 災害発生時にどこ避難所が開設したのか情報を早めに連絡

し、高齢者が早く避難できるようにしてほしい。

■ 防災メールでお知らせしている。活用していただきたい。このことについては担当課に伝える。

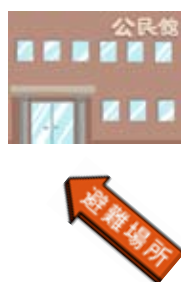


細野小校区

参加者
16人

■ 避難所が遠くお年寄り災害の時たどり着けない恐れがある。身近なところに避難所を設けてほしい。

■ 一時避難所については地域で設定することが可能である。地域の方々と話し合ってほしい。



南小校区

参加者
10人

■ 常会で設置した防犯灯が4基ある。現在、組加入4世帯で電気料を払っているが財政的に大変苦しい。組の合併や防犯灯減も検討したが簡単にはいかない。市からの半額助成などないものか。

■ 議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

■ 産婦人科医の招致がすぐに行きととは思っていない。産婦人科再開までの間、宮崎市や都城市に健診に通う妊婦に対し交通費を助成したらどうか。

■ 議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

西小林小校区

参加者
18人

■ 小林市立病院の産婦人科・小児科を充実してほしい。

■ 妊婦の健診については、宮崎大学からの派遣医師により行っているが、健診と出産する病院が違ふと不安があるのか、予約が伸びていない。どうすればいいのか議会でも議論を深めていく。えびの市・高原町の首長は小林市立病院での産婦人科充実という意見で統一している。議会としても協力していきたい。



小児科

産婦人科

詳しくは、上記のQRコードを読み取ることで、小林市立病院ホームページ「産婦人科」「小児科」のページでご覧いただくことができます。

○議会への提言・疑問・質問などお寄せください。

○今回の「はなみずき」で関心のある記事や感想があればお書きください。また、もっと読みたいとなるような「アイディア」があればお寄せください。



■ 小林の貴重な財産である「牧場の桜」や「霧島岑神社」への観光客の誘致をすべきだ。また、霧島岑神社のトイレの改修はできないか。

■ トイレについては行政で整備するのは難しいとの担当課からの回答であった。観光誘致については、議会全体でも議論を深めていきたい。

■ 防犯灯の電気料をいきいき地域づくり区交付金で払っている。いきいき地域づくり区交付金は続けていってほしい。

■ いきいき地域づくり区交付金は今後も継続予定である。使途については、各区で決めている。

■ 小林市は鯉の生産が昔から盛んである。こいのぼりを本通りに飾り観光に生かしたらどうか。

■ 議会でも議論するとともに担当課にも伝える。

■ 市立病院の産婦人科が休診してから現在まで医師の確保ができていない。市長も議員も理由を分析し反省しながら進めていかないと、解決につながらない。

■ 2市1町の首長、議会、各関係機関で情報共有しながら取り組んでいく。

東方小校区

参加者
9人

■ えびの市で産婦人科がなくなり西諸で出産できない。議員・市長は今まで何をしていたのか。責任は感じないのか。なぜ議題にならないのか。

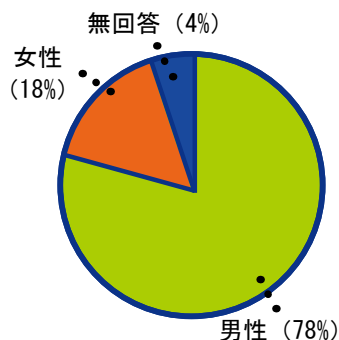


◎小林市立病院での産婦人科（分娩）再開について

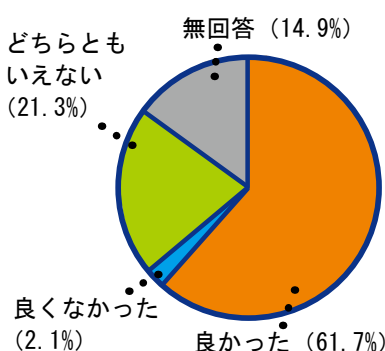
意見交換会では、小児科・産婦人科の充実を求める意見が各地区で出されました。その後、西諸出身の医師を中心とし、宮大医学部産婦人科の支援のもと、平成30年7月から小林市立病院での産婦人科（分娩）を再開する運びとなりました。また、9月定例会では、妊婦等に対し通院にかかる交通費として妊娠1回につき2万円交付する予算が可決されました。

アンケート調査から分かること

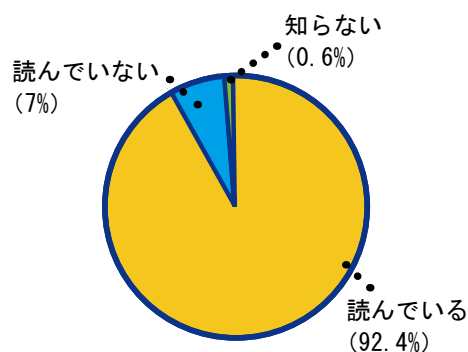
参加者の男女の割合



意見交換会の評価



はなみずきについて



「良かった」という方の意見

- 議員と市民との距離が近くなったと感じる。市民の声をひろうことができ、行政へ要望する機会を得る良い場であると感じた。
- お互いに意見をする中で、お互いの立場を理解できると思います。
- 地区内でも普段話さない人の意見を聞く機会となった。
- 高齢化を意識した交通の問題など大変参考になる意見が聞かれた。
- 地元の意見や悩みなど直接話すことができ、いい機会である。
- 市民の方々からは、批判的ではなく前向きな意見が出されたと思います。また、議会の方々も市民の意見に対し、適切に対応されていたと思います。
- 市民の声を少しでも取り入れていただき、小林市民みんなで、小林市をよくしていきたいです。

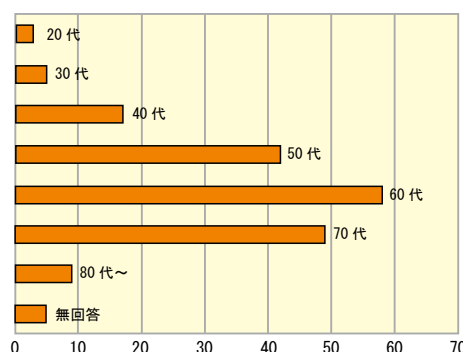
「自由意見」から

- 市民にとっては、市政について直接意見を述べる場だと思います。継続が必要だと思います。
- 参加者の年齢に偏りがあるため、幅広い年齢層の参加を模索しなくてはならない。
- テーマについてはその都度変わりますが、高齢者、子供など弱者についても取り上げてもらいたい。
- 開催時期、時間を検討してほしい。

「良くなかった」「どちらともいえない」と答えた方の意見から

- 市民の声を聞いてもらえるのはありがたい。ただ、声がどれだけ行政に伝わるか若干不安を感じる。
- 参加者、発言者が限られていた。もう少し多くの方に参加してもらいたい。

参加者の年齢層



切り取ってお出しく下さい

料金受取人払

差出有効期間
平成31年7月24日まで
(切手を貼らずにお出しく下さい)

郵便はがき

886-8790

(受取人)

小林市細野300番地

小林市役所 議会事務局

広報広聴委員会 行

(はなみずき 2017.11.15 臨時号)

ふりがな
ご氏名

※「はなみずき」に掲載させていただく場合に、イニシャルやペンネームをご希望される場合はご記入ください。

□□-□□□□

ご住所

お電話 ()-()-()